

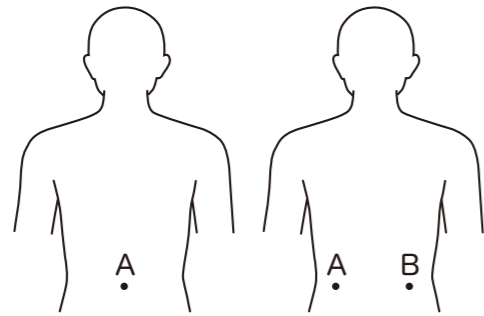
④ 小周天は回っているの? YES ⑤ へ

NO

「回っていないのは、前側? 後側?」

YES

高さを聞く
「腰より上? 腰より下?」
(ちなみに、9割くらいが、腰より上にあります)



ツボが点で存在
→ ホツマ文字

<△の場合その1>

★「その点と点の間にツボはあるか?」
と聞きます。

YES

間にもうひとつツボをとって、印を入れます。さらに、

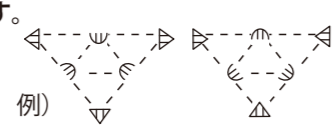
「その点と点の間にツボはあるか?」
と聞きます。

YES

同様に、ツボをとって、印を入れます。
ここまでやったら初めて
ホツマ文字を特定していきますが、

「いちばん外側の3つは何?」

「その間の3つは何?」と調べていきます。
文字の「向き」も聞きます。



例)

YES

高さを聞く
「へそより上? へそより下?」
(ちなみに、9割くらいが、へそより上にあります)

セルフオでツボの位置を調べていきます。

ツボが点で存在 → ホツマ文字 ツボが面で存在 → 龍体文字

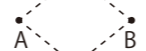
左右対称に2点のツボが出たら

2点なの?



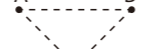
ツボが点で存在
→ ホツマ文字

菱形なの?



ツボが面で存在
→ 龍体文字

△なの?



例

「△は上向きなのか? 下向きなのか?」聞きます。
△の場合は、2パターンあります。(下記参照)

<△の場合その2>

単純に3点を線で結びます。

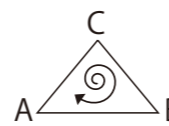
下向き▽ならエネルギー不足。
ひふみ祝詞

上向き△ならエネルギー過剰。
あわ歌

三角形の中に、ホメミ文字を渦状に、ひふみ祝詞
(または、あわ歌)の順に描くか、あるいは自動
充電△シートをあてて、文字を目で追いながら、
ひふみ祝詞 (または、あわ歌) を言いながらまわ
します。



ひふみ祝詞

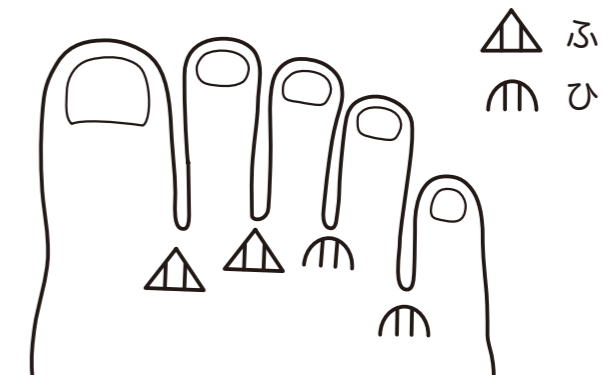


あわ歌

⑤ 大周天は回っているの? YES ⑥ へ

NO

回っていない場合、足の甲側の、
指の間に、セルフオで調べて、ホ
ツマ文字の「ふ」か「ひ」を描く。
軽症の人は2つくらい、重症の人は
4つツボが出ます。

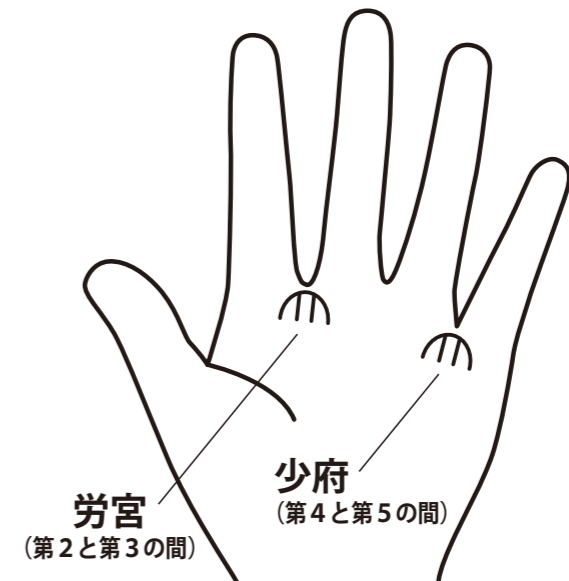


さらに、
「手のひらの流れ正常か?」
を聞く。

YES ⑥ へ

NO

セルフオで第2か第3か第4の間
を調べ、
手のひらの該当箇所に、ホツマ文
字「ひ」を描く。
労宮 (ろうきゅう: 第2と第3の間) と少府 (しよ
うふ: 第4と第5の間) が多い。
第3と第4の間は「変動労宮」と
言われている。



そこまで調整が済んだら、
ようやくここで具体的な症状を聞いていきます。
次ページ ⑥ へ